



8月28日のシンポジウムの様子。左から石本伸晃、服部圭郎さん、柏雅康さん、大友良英さん、保坂展人さん、大木雄高

「シモキタ再生」というテーマを掲げた今年には、シンポジウムのみならず、音楽や落語などのライブ・パフォーマンスも、3月の原発事故と理不尽な再開問題に共通するシステム上の欠陥に着目し、それを克服するための術を探ろうという意識が感じられる内容となりました。シンポジウムにもミュージ

今年のテーマは「シモキタ再生」
「まもれシモキタ！行政訴訟の会」 Save the 下北沢” “下北沢商業者協議会”の共催による「SHIMOKITA VOICE 2011」が、8月27・28日の二日間、下北沢北口のアレイホールにて開催されました。

“シモキタ新時代”を開くシンポジウム

世田谷区長が計画の見直しに言及

「シモキタ再生」

シャーンが参加して意識を共有したことが、そうした全体の流れを滑らかにした一因といえるでしょう。

保坂展人世田谷区長がシンポジウムに参加！

今回の「SHIMOKITA VOICE 2011」で、最も多くの注目と期待を集めたのは、8月28日の「区長とともに考えるシモキタらしい駅前広場と街づくり」と銘打ったシンポジウムです。

区政の問題を巡るシンポジウムに区長が出席するということがあって、朝日新聞、産経新聞、東京新聞などのメディアが大きく取り上げ、テレビカメラを持って取材に来ていたNHKは、シンポジウム終了直後に、ニュースでその模様を報道しています。

“SHIMOKITA VOICE 2011”の出演者

8月27日

○シンポジウム

宮台真司(社会学者)、坂手洋二(“燐光群”主宰・日本劇作家協会会長)、おおたか静流(歌手)、清野由美(ジャーナリスト)

○ライブ

おおたか静流+大熊ワタル+近藤達郎+こぐれみわぞう+翁長みどり

立川談四楼(落語)

8月28日

○シンポジウム

保坂展人(世田谷区長)、大友良英(ミュージシャン)、服部圭郎(明治学院大学経済学部教授)、柏雅康(しもきた商店街振興組合理事長)

○ライブ

大友良英+テニス Courts(さや&植野隆司)

駅前広場は歩行者専用54号線は当面不要！
こうした話題性もあって、場内にぎっしりと人が詰めかけた会場では、司会進行を担当する石本伸晃(まもれシモキタ！行政訴訟弁護団)が、本紙前号でも告知していた「下北沢の道路計画と駅前広場計画についてのア

ンケート」の集計結果を発表。83.4%の人が駅前広場は歩行者専用、87.9%の人が北口の補助54号線は当面建設の必要なしと考えていることを明らかにしました。
アンケートのデータを受け取った区長は、小田急線の跡地については、区民の意見を広

まもれシモキタ！通信

022

2011.09.10
まもれシモキタ！
行政訴訟の会

〒155-0031
世田谷区北沢 2-9-19
植松第一ビル 201
コモン法律事務所内

TEL: 03-5452-2015
FAX: 03-5452-2016
URL:
www.shimokita-action.net

目次

- 1 シモキタ新時代を開くシンポジウム
- 2 アンケートの集計結果と分析
- 4 裁判レポート



区長に住民アンケートのデータと要望書を渡す
SHIMOKITA VOICE 実行委員長の大木雄高

く聞く場を設けて素案を見直し、補助54号線や駅前広場についても下北沢にふさわしいものに修正する余地がないかを検討するとう意向を明らかにしました。

ラウンドテーブル 設立に向けて前進

このシンポジウムには、商店街から柏雅康さん（しもきた商店街振興組理事長）も出席し、異なる立場の人々が協議する場を設けて、下北沢がより良く

なる方向を探っていくという点で意志一致。いわゆるラウンドテーブルの設立が現実的な課題として立ち上がる「シモキタ新時代」の幕開けとなりました。

今回のシンポジウムにおけるこうした画期的な成果が、9月以降の法廷や区議会にどんな影響を及ぼしていくのか？

今後の動向にもよりいっそうのご注目をお願いします。

下北沢の道路計画と駅前広場に関するアンケートの集計結果と分析

新しい区長就任に伴う 民意の再確認

「SHIMOKITA VOICE」2011にて集計結果が発表されたアンケートは、今年6月18日から8月25日までの期間に広報、配布、回収されたものです。

この種の調査としては、世田谷区が平成12年5月に下北沢の駅前広場に関するアンケートを行なっています。

その時の結果は、回答者は737人。その93%の人が、駅までの交通手段は「徒歩」で、69%の人が「歩行者を中心とした駅前広場」とするべきだと答えています。

とはいえ、これはすでに10年以上前のデータとなってしまうため、保坂展人氏が新たな区長に就任したことを踏まえ、今回は改めて民意を確認するために実施しました。今回のアンケートの計画に関する質問は全

部で四つです。

- 1. 駅前広場の利用法
- 2. 駅前広場の大きさ
- 3. 補助54号線と茶

4. 54号線の北口の部分の建設を急ぐべきかどうか

これらの設問への回答は、計画の事業主体である世田谷区の権限の及ぶ範囲で設定された複数の選択肢から答える方式です。

告知や配布については、世田谷区が平成12年にアンケートの対象とした地域（東西南北を、補助26号線、環七、梅丘通り、井の頭通りで囲まれた駅周辺）には、二回全戸配布。その他には、週末に北口駅前街頭で配布した他、インターネットでも回答できるようにしました。

回収と集計について

回収方法は、配布場所直接記入できるようにすると共に、手渡し、郵送、FAX、イ

ンターネット等です。

アンケートの回答者数は1181通。このうち用紙での回答は773通、インターネットは408通でした。なおインターネットでの回答は、同一人物から複数の回答が寄せられ、統計的な偏りが出るのを避けるため、ひとつのIPアドレスからは、一回しか記入できない措置を施してあります。

その集計結果をまとめたものが、左ページの表とグラフです。

世田谷区が以前実施した地域については、今回の回答数がほぼ同数か、やや上回っていることが分かります。

83.4%の人が駅前広場は歩行者専用、87.9%の人が北口の補助54号線は当面建設する必要がないと回答し、歩行者専用の街づくりを望む意見が10年前よりも多くの割合になっていくことがわかりました。

また興味深いのは用紙での回答とインターネットでの項目ごとの選択肢の比率がほとんど変わらない点。これは統計的に偏りの無い極めて信憑性の高い民意を反映していることの現れといえるでしょう。

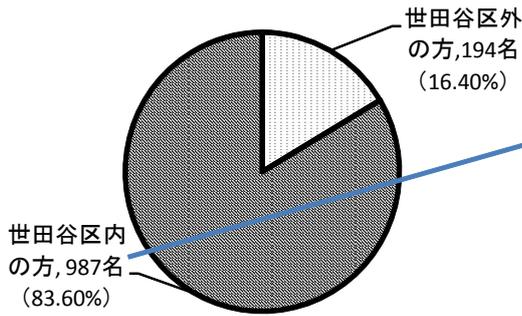
協議の場を設置して 計画の見直しを

シンポジウムの終盤では、SHIMOKITA VOICE 実行委員長の大木雄高から、区長にアンケートのデータと要望書を手渡ししました。

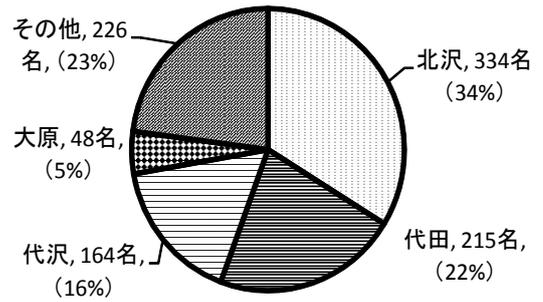
要望書の内容は、アンケートの結果を踏まえ、シモキタ問題に関する協議の場（ラウンドテーブル）の設置など、住民の意向が反映される枠組みの下で、計画の見直しを求めるものとなっています。

これを受けた区長が、毅然とした態度で住民のための街づくりに着手するのを期待したいところです。

回答者の属性



世田谷区内の方の町名



問1 駅前広場の利用方法は？

	回答用紙		インターネット		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 歩行者専用広場(緊急車両は通行可)とする	637	83.3%	341	83.6%	978	83.4%
2 緊急車両、バスが通行できるようにする	33	4.3%	20	4.9%	53	4.5%
3 緊急車両、バス、タクシーが通行できるようにする	50	6.5%	24	5.9%	74	6.3%
4 緊急車両、バス、タクシー、一般車両が通行できるようにする	45	5.9%	23	5.6%	68	5.8%

問2 駅前広場の大きさは？

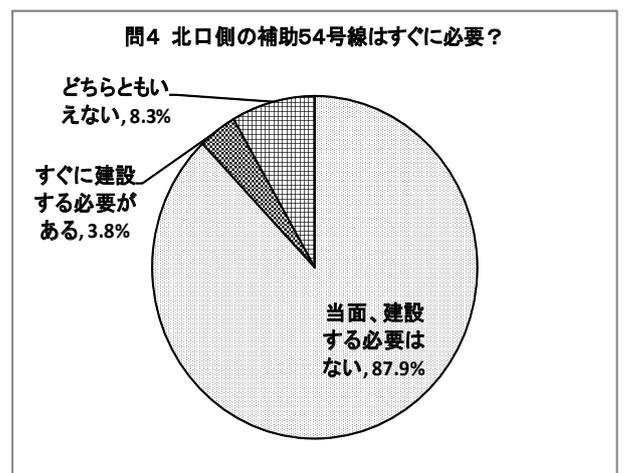
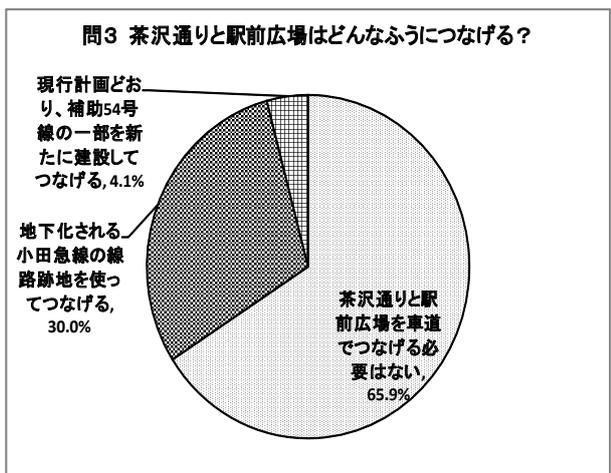
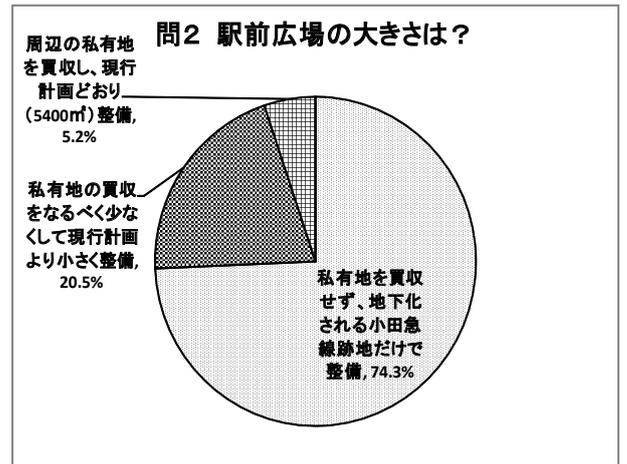
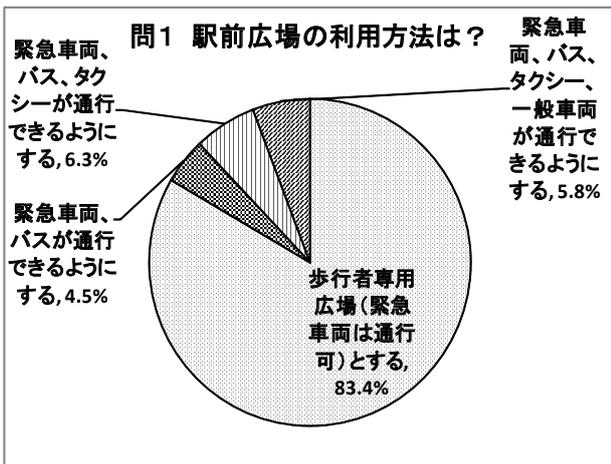
	回答用紙		インターネット		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 私有地を買収せず、地下化される小田急線跡地だけで整備	572	74.5%	302	74.0%	874	74.3%
2 私有地の買収をなるべく少なくして現行計画より小さく整備	158	20.6%	83	20.3%	241	20.5%
3 周辺の私有地を買収し、現行計画どおり(5400㎡)整備	38	4.9%	23	5.6%	61	5.2%

問3 茶沢通りと駅前広場をどんなふうにつなげる？

	回答用紙		インターネット		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 茶沢通りと駅前広場を車道でつなげる必要はない	505	66.5%	264	64.7%	769	65.9%
2 地下化される小田急線の線路跡地を使ってつなげる	224	29.5%	126	30.9%	350	30.0%
3 現行計画どおり、補助54号線の一部を新たに建設してつなげる	30	4.0%	18	4.4%	48	4.1%

問4 北口側の補助54号線はすぐに必要？

	回答用紙		インターネット		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 当面、建設する必要はない	674	87.5%	361	88.5%	1035	87.9%
2 すぐに建設する必要がある	31	4.0%	14	3.4%	45	3.8%
3 どちらともいえない	65	8.4%	33	8.1%	98	8.3%



裁判レポート

返答に窮する東京都——なぜ補助54号線に直径40mのサークル部分が必要なのか？

6月28日（火）、下北沢道路事業認可取消等訴訟の第21回口頭弁論が、東京地裁103号大法廷で行われました。原告弁護士は、準備書面35539を提出し、「国が昭和39年の都市高速鉄道9号線（現千代田線）の都市計画決定において、小田急線の既設部分と増設部分の構造決定をしたと主張することは矛盾だらけである」と、「都が平成15年に小田急線の地下化に伴い補助54号線を嵩上げ式から地表式に変更したときに、サークル部分もそのままとした違法性」を「昨年末に発行された雑誌「City & Life」特集：下北沢から都市を考える」がシモキタの特徴を歴史的・学術的に分析している内容を紹介し、保坂新区長誕生のもとで、道路・再開発計画によって失われる価値を再検討すべき」と等を弁論しました。

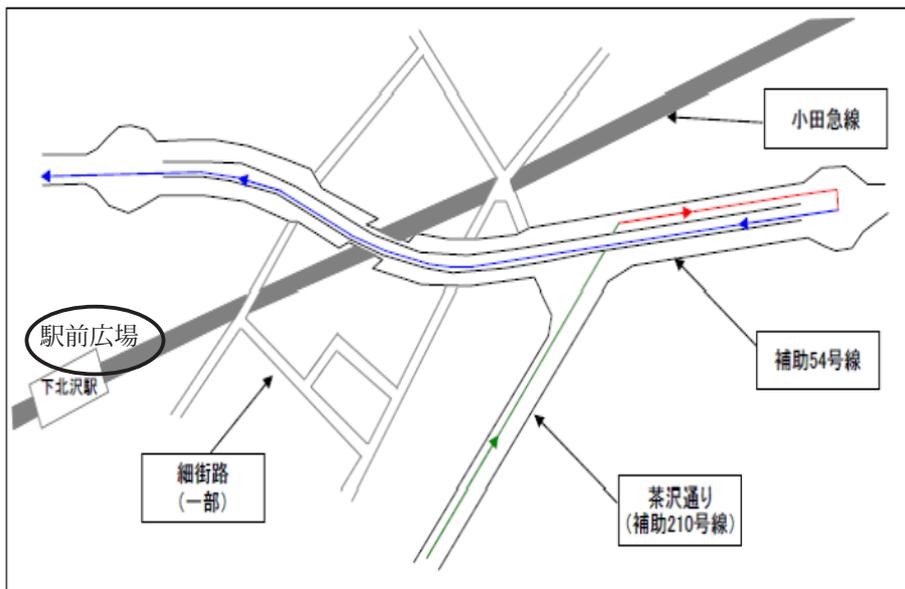
サークル部分設置の経緯

補助54号線は、昭和21年の都市計画決定では幅員20m、昭和25年の計画変更決定では15mでした。それが、昭和41年の計画変更では小田急線と立体交差する区間については、地表式から嵩上げ式に構造が変更となり幅員も22.5と26mに変更し、両端に直径40mのサークル部分が設置されることとなりました。

小田急地下化後も道路幅員・サークルは変わらず
平成15年に、小田

急線が地下化され補助54号線が嵩上げ式から地表式に変更となった後も、不要となった22.5と26mの道路幅員とサークル部分はそのまま維持されました。原告側は法廷で何回もその理由説明を求めましたが、東京都は現在に至るまで説明できずにいます。

サークルは茶沢通りとのアクセスのため？
今回、原告代理人の石本弁護士は、昭和41年の計画変更では補助54号線が茶沢通りとも立体交差となるために、両者のアクセスを確保するために



サークル設置を計画したのではないかと追及しました。裁判長も、次回9月22日の口頭弁論までに、被告東京都に回答するように命じました。

（左図：昭和41年変更時の補助54号線と茶沢通りの関係性。矢印は茶沢通りから補助54号線を西に進む自動車ルートを示している）

サポーター募集とカンパのお願い

「まもれシモキタ！行政訴訟の会」では、この訴訟をバックアップして下さるサポーターを募集しています。サポーターの方々には1口5,000円/年（複数口歓迎）のご負担と支援をお願いしています。「まもれシモキタ！通信」をはじめ、勉強会・シンポジウムなどのイベント情報、裁判の進行状況や活動状況について郵送・メールにてお伝えします。★カンパのみの応援も大歓迎しています（郵便口座00120-2-594289 まもれシモキタ！行政訴訟の会まで）。

サポーター参加と運営費のカンパ協力をお願いします！

「まもれシモキタ！行政訴訟の会」サポーター担当：堀江照彦
TEL&FAX: 03-3467-6936 E-MAIL: HorieTeru@aol.com
住所：〒155-0031 世田谷区北沢 4-14-17

第22回 口頭弁論のお知らせ

日時：9月22日（木） 15：30～
場所：東京地方裁判所 103号大法廷
交通：東京メトロ丸の内線日比谷駅
千代田線 霞ヶ関駅 A1出口から徒歩1分
有楽町線 桜田門駅 5番出口から徒歩5分

大法廷を傍聴人で一杯にし、この訴訟への関心の高さを裁判官にアピールすることが重要です。皆様、是非ご参加下さい。法廷終了後に、弁護士会館で裁判の内容について弁護団から解説を受けるとともに、質疑応答・意見交換も行います。

裁判の経緯・過去の裁判資料はウェブで公開しています↓
<http://www.shimokita-action.net/archive/>

編集後記： SHIMOKITA VOICE 2011 に保坂世田谷区長、しもきた商店街振興組合柏理事長が参加、それぞれ、「よりよい下北沢再生のために」改めて幅広い民意を聞く場を設ける」と発言、誰もが望む方向は同じ。